

中学校 外国語科

1 改訂の趣旨及び要点

目標の改善

*各学校段階の学びを接続するとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする。

知識・技能の習得	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを 理解 するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる 実際のコミュニケーション において活用できる 技能 を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等の育成	コミュニケーションを行う 目的や場面、状況など に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えを 理解 したり、これらを活用して 表現 したり伝え合ったりすることができる力を養う。
学びに向かう力・人間性等の涵養	外国語の背景にある 文化に対する理解 を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に 配慮 しながら、 主体的に外国語を用いてコミュニケーション を図ろうとする態度を養う。

内容構成の改善

現行学習指導要領	新学習指導要領	育成をめざす資質・能力が確実に身につくよう、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕で構成。 〔学びに向かう力、人間性等〕は、「外国語科の目標」に記載。
(1) 言語活動 ア 聞くこと イ 話すこと ウ 読むこと エ 書くこと	〔知識及び技能〕 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項	
(2) 言語活動の取扱い	〔思考力・判断力・表現力等〕 (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項	
(3) 言語材料		

改善のポイント

- 「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の**5領域**に。
- 自分の考えや気持ちを伝え合う、**対話的な活動を重視**。
- 授業は英語で行う**ことが基本。
- 扱う語彙数が、1,200語程度から、**1,600語～1,800語**に増加。
- 表現を適切でより豊かにするために、**「感嘆文のうち基本的なもの」や「現在完了進行形」などが追加**。

2 中学校外国語科における授業づくりのポイント

授業を始める前に

ゴール（単元の終わり）から逆算した指導計画を立てることが大切です！

- 単元の終わりに、「生徒が英語を使ってどんなことができるようになるか」を決める
☆単元が終わったときに「生徒が使えるようになる英文」を書き出してみると、ねらいを明確化しやすくなります。

- 単元のねらいを達成するために、各時間のねらいと評価方法を決める
☆単元を通して、どの場面で何を評価するかを検討します。

- 各時間のねらいを達成するために、どのような活動を行うかを決める

【単元目標例】

「将来の夢について、不定詞などを使って、簡単なスピーチをすることができる」

【生徒が使えるようになる英文例】

I want to be a ○○ in the future.

I study △△ to ～.

I have a lot of things to ～.

授業実践・振り返り

言語活動の充実のために

- 目的、場面、状況を設定し、「自分の考えを伝え合う活動」を重視しましょう。
- 授業を実際のコミュニケーションの場にしましょう。
・教師も自分の考えを英語で話し、「英語を使うモデル」を示しましょう。
・教師によるスモールトークの概要を捉え、内容について質問するなど、英語での【やり取り】を増やしましょう。
- 「やり取り」の活動後に内容を書かせて、正確さを見取る方法もあります。
- 生徒が英語を言い間違えた場合は、すぐに訂正するよりも、正しい言い方を伝えて、間違いに気づけるよう促しましょう。
- 小学校での外国語学習の内容を把握し、さまざまな場面で繰り返し活用することを意識しましょう。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に向けて

「主体的・対話的で深い学び」が実現されている授業例

【主体的】

- 生徒の興味・関心を高めるような教材提示や発問をしている
- 生徒が見通しを持てるよう、単元や授業のねらいを示している
- 学習してできるようになったことを、生徒自身が確認できるようにしている

【対話的】

- インフォメーション・ギャップなどを用いて、新たな情報を得ることができるようにするなどの工夫をしている
- 自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための工夫ができるようにしている
- 他者の多様な意見に気付くことができるようにしている

【深い学び】

- ターゲットセンテンスだけでなく、既習の内容も使って伝えるようにしている
- 内容を伝えるための英語を自分で考えられるよう、時間を確保している
- 学んだこと踏まえて、自分の考えを再考する場面を設定している

CAN-DO リストを積極的に使い、目標を生徒と共有しましょう！

ペア活動では、それぞれの生徒に違う情報が記載されたハンドアウトを提供するなど、コミュニケーションを取る必然性のある活動を行いましょう！

生徒が伝えたい内容の構成を考えたり、整理したりするなどして、聞き手に分かりやすく伝えられるよう継続的に指導しながら、即興で表現できる力を養うことをめざしましょう！

生徒が自ら英語を考えるために、提示するヒントの量が多すぎないように注意しましょう！